

取組実績の概要 【2ページ以内】

[交流プログラム]

事業担当教員と学生によって構成されたユニットによる交流プログラムである「ユニットプログラム」、個人の研究・創作活動のために一定期間連携大学に滞在し活動に取り組む「個別研修プログラム」、および交換留学を実施し、合計派遣学生162名/受入学生80名に上った。また、複数の連携大学から同時に招聘する「合同招聘プログラム」やプログラム参加者のための事前学習を目的とした特別レクチャー等も外部講師を招き開催した。



カンボジアの王立芸術大学と美術学部工芸科
によるユニットプログラム：平蒔絵の
ワークショップ (2018)



ミャンマー国立文化芸術大学と音楽学部音楽
環境創造科によるユニットプログラム：
録音実習を通じた民族音楽の保存 (2019)

＜オンラインによる交流プログラム＞

2020年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により渡航を伴う交流が困難となったことを受け、オンライン上での交流プログラム実践のためのオンライン・プラットフォーム「TMOP (Tokyo University of the Arts ⇔ Mekong Online Platform)」事業を開始 (<https://tmop.geidai.ac.jp/>) した。本学がメコン流域の芸術大学と交流しながら、芸術文化を育成するためのオンライン・プラットフォームとなることを目的として設立した(令和2年度末までの延べ利用者数は346名)。

また、2021年1月には、本事業での本学の取り組みを総括すること目的としたオンラインイベント「Tokyo Geidai ⇔ Asia 2021 (Tokyo Geidai Interactive Asia 2021)」を開催した。同イベント内の国際フォーラムでは、本学教員や連携大学の教員及び麻生和子氏 (Asian Cultural Council 日本財団代表理事、東京芸術大学理事) を交え、これまでの事業の総括を行なった。本イベントは、「大学の世界展開力強化事業 (キャンパスアジア)」と合同で行われ、オール藝大かつオールアジアでの取り組みに向けて発展していく契機ともなった(本学学生2名(修士課程1名および2020年3月修士課程修了生1名)・教員18名/連携6大学学生1名・教員12名参加。視聴者としての学生参加数を含めると、合計視聴数は280名)。

[質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成]

連携大学間で、「ASEAN+3学生交流のためのガイドライン」に基づく成績評価・単位付与・単位互換等の制度を踏まえた評価のあり方について、連携大学間で協議を行った。その結果、連携大学と本学との共同授業及び協働社会実践については、双方の教員がすべて参加し、双方の観点・視点からの交流プロジェクトを企画・実施し、また双方から参加学生の評価がなされる体制を構築した。また、プロジェクト成果や学生の成果物については、委員会の評価等を経て一般公開もされており、第三者からの評価や助言、意見が反映される仕組みとした。その他、本事業に係る「自己評価書」と「外部評価書」を毎年度作成し、取組の点検を実施した。

加えて、連携先6大学(平成29年：カンボジア王立芸術大学・ベトナム美術大学・ベトナム国家音楽学院・シラパコーン大学、平成30年：ミャンマー国立文化芸術大学、平成31年ホーチミン市美術大学)と双方の学長名によるMOU(覚書)を締結し、交流の促進を図った他、タイのシラパコーン大学と本学美術研究科は、博士後期課程のダブルディグリープログラム協定を締結(2020年12月)する等、質保証にかかる取り組みを積極的に進めた。

【外国人学生の受入および日本人学生の派遣のための環境整備】

連携大学からの受入れ学生に対しては、歌舞伎の鑑賞、美術館・博物館・伝統工芸の工房等における学修、長崎県五島列島や鎌倉地域での研修、奈良・京都における古美術研究旅行への参加、絵筆や絵の具工場の見学等、「心のインフラ構築」のための日本の芸術文化・産業を体験する多様な機会を提供した。

本学の学生派遣にあたっては、渡航先国の社会・文化・言語・宗教等を深く理解するため、外部講師を招聘し特別講義を事前に実施した。その一環として、ASEAN諸国の伝統楽器をテーマとしたレクチャー・コンサート「DRUMS AND VOICES 2017」を2017年8月に開催した。

また、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大による世界的な環境変化に対応するため、いち早くオンラインでの国際交流を可能にするためのプラットフォーム（ウェブサイト）を5月に開設した。

今後の展開として、本プロジェクトを含めた世界展開力事業や国際共同プログラムの実践により、全学共通課題として学生への教養教育の重要性が再認識されたため、2021年度より「グローバルアーティストのためのリベラルアーツ」と題する講座を開設し、その中で「アジアの文化芸術」に関する講義シリーズを実施、事業終了後も事業で得られた経験をもとに、学生の派遣環境整備をソフト面も含めて進めている。

【事業の実施に伴う大学の国際化と情報の国際、成果の普及】

本学と連携大学とのプロジェクトには、他大学の学生や地域の住民・子供達等も幅広く参加し注目を集めるものであったため、活動内容・成果は、現地の報道機関や新聞に取り上げられることもあった。また、プロジェクトごとに報告書等を作成し、学内外に広く情報・成果を発信した。具体的には、本学における研究・教育の実績を世界に向けて発信するためのwebサイト「GEIDAI × GLOBAL」

(<http://global.geidai.ac.jp/>)にて、日英両言語での情報公開を行い、「大学の世界展開力強化事業（ASEAN）プロジェクトレポート」を発行し、関係する団体・組織に幅広く配布した。

また、2021年1月には、オンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021 (Tokyo Geidai Interactive Asia 2021)」を開催し、本学教員や連携大学の教員、および外部有識者を交えて、これまでの事業の総括を行った。これらはYouTubeやウェビナーで広く一般にも公開し、合計280人が視聴参加した。本イベントは、芸術系財団をはじめとした外部から大きな反響があり、本事業の成果普及のみならず、これまで交流のなかった団体とのネットワーク形成のよい機会となった。

加えて、本事業を契機に連携大学はじめ関連団体、組織との緊密な関係が築かれ、相手国の文化芸術イベント、展覧会等に招待・参加する等、藝大の国際プレゼンス向上、日本およびアジアの芸術文化普及にも寄与している。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

| | 2016年度 | | 2017年度 | | 2018年度 | | 2019年度 | | 2020年度 | | 合計 | | | |
|-----|--|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|-----|----|-----|----|
| | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | 派遣 | 受入 | | |
| 計画※ | 18 | 10 | 36 | 16 | 36 | 19 | 36 | 19 | 36 | 26 | 162 | 90 | | |
| 実績 | 実際に渡航した学生 (以下「実渡航」) | | 22 | 20 | 56 | 21 | 50 | 21 | 17 | 8 | 0 | 0 | 145 | 70 |
| | 自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」) | | | | | | | | 10 | 3 | 7 | 7 | 17 | 10 |
| | 実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」) | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**【ASEAN地域における芸術文化高等教育基盤の整備・構築（芸術教育プログラムの輸出）】**

連携大学との共同プログラムは、連携先の各大学が課題として抱えている芸術教育カリキュラム体系化やコース・学科の新設等、芸術教育や芸術分野研究の発展に貢献できる内容となるよう連携大学と密に協議を重ね、プログラムを構成した。我が国唯一の国立総合芸術大学としての経験豊かな芸術教育基盤を活かし、**芸術教育プログラム・ノウハウの海外提供**を目指し、実践を重ねた。

具体的には、映像分野の教育が始められたばかりのミャンマー国立文化芸術大学において、ストップモーションアニメーションのワークショップの開催（2017）、アニメーションの歴史の講義（2018）、映画祭への共同出品（2019）など、「アニメーション」分野に関する段階的な共同プログラムを実施した。その成果として、事業最終年度には同大学においてアニメーションを専門とするコースの設立に至った。

また、同大学音楽学部では実技指導だけでなく伝統音楽分野の理論的研究を扱う基盤の構築が課題とされていたが、本学音楽学部との共同研究実践や、同大学の若手教員を対象とした音楽教育に関する研修プログラムの実施、現地での伝統音楽の教材作りワークショップ等のカリキュラムを提供した。実技分野だけでなく理論研究が中心である「音楽学」の実践プログラムを通し、同大学音楽学部のシラバスや授業設計への応用に貢献した。



ミャンマー国立文化芸術大学：
ストップモーションアニメーション
ワークショップ（2017）



ミャンマー国立文化芸術大学：
「音楽学とはなにか」をテーマとした
特別講義（2019）

【藝大をハブとした「アジアの芸術文化」発展のための国際的・文化的ネットワークの構築と「アジア芸術文化」の国際発信】

様々な芸術交流の実践では大学間のネットワークだけでなく、日本国内の芸術文化団体や研究機関、ASEAN地域で活躍する芸術文化団体と協働し取り組んだ。その結果、本学を中心とし、また、各国の連携大学をその地域のハブとした、アジアの芸術文化のための面的広がりを持った国際的ネットワークの構築が実現した。

ユニットプログラム事業の一環として取り組んだタイ・シラパコーン大学との国際学会「SEAMEX (Southeast Asia Music Education Exchange)」への発表参加（2019）では、アジアの芸術文化を対象とした音楽分野の学術ネットワークを築いた。また、シラパコーン大学と本学美術研究科は、博士後期課程の**ダブルディグリープログラム協定を締結**（2020年12月）した。

また、最終年度の成果公表の場として実施したオンラインイベント「Tokyo Geidai ⇄ Asia 2021 (Tokyo Geidai Interactive Asia 2021)」は、一般にも公開し、280名の視聴参加があった。本イベントには、連携大学の教員学生及び、国内外のアジアの芸術文化を専門とする研究者、アーティストなどが参加し、芸術系財団等の外部からも大きな反響があった。また、これらネットワーク基盤を生かし、連携大学とともに「日本及びアジアの芸術文化」の普及のための対外的かつ国際的な発信を行った。具体的には、日メコン交流年2019事業「Beauty of Mekong Art Exhibition and Painting Competition」（ミャンマー宗教・文化省主催）への参加をはじめ、ミャンマーの国際映画祭であるワットン映画祭での作品発表、ベトナム・ハノイ及び日本の双方での室内楽コンサートの開催等、「日本とアジアの芸術文化」を発信する数多くの実践事業に取り組んだ。

さらに、事業終了に際して学内に「東京藝大アジアアートイニシアティブ」を設立し、本学では引き続き「アジアの芸術文化」発展のための芸術交流のハブとなることを目指し活動に取り組んでいる。